

「新しい世界へ・・・」

情報・技術科

芳野航太

みなさんは、これまでに「この本、読んでみて」と誰かにすすめられた経験がありますか？私にとって、その記憶は小学校6年生のときに担任の先生から本を紹介されたことに始まります。普段は自分の好きなジャンルばかり選んでいた私に、先生がすすめてくれたのは『十五少年漂流記』という一冊でした。

正直に言うと、そのときは「冒険ものか…」と少し気が進みませんでした。私は当時、スポーツに関する本を好んで読んでいたので、無人島で少年たちが生き抜く話は、あまり自分には関係ないように思えたのです。しかし、先生が「きっと新しい発見があるよ」と言ってくれた言葉に背中を押され、読み始めてみました。

ページをめくるうちに、物語の世界に引き込まれていきました。十五人の少年たちが突然の漂流という困難に直面し、協力しながら生き抜こうとする姿は、同年代の子どもたちだからこそ感じるリアルさがありました。リーダーシップを発揮する少年、仲間を励ます少年、時には衝突しながらも前に進む姿——その一つひとつが、私に「勇気とは何か」を考えさせ、「仲間を信じることの大切さ」を教えてくれました。

この体験を通じて、私は「本は自分の世界を広げてくれるものだ」と強く感じました。普段の自分なら選ばないジャンルの本を読むことで、知らなかった価値観や考え方に触れることができます。『十五少年漂流記』は、私にとってまさにその扉を開いてくれた一冊でした。

みなさんも、ぜひ本を通じて新しい世界に触れてみてください。自分の好きなジャンルを読むのも楽しいですが、時には先生や友だちにすすめられた本を手にとってみるのもおすすめです。そこには、きっと今まで知らなかった感動や発見が待っています。

本は、遠い国や過去の時代、未来の世界へと私たちを連れて行ってくれます。そして、そこに生きる人々の考え方や生き方を知ることで、自分自身の視野が広がり、心が豊かになります。困難に立ち向かう勇気、仲間を思いやる優しさ、諦めない強さ——そうしたものと、本の中で出会うことができるのです。

図書館には、みなさんの知らない世界への扉がたくさん並んでいます。ぜひ、その扉を開けてみてください。きっと、あなたの心に新しい風が吹き込むはずです。

(※ 『十五少年漂流記』は、本校にもあります。図書館の中央に出しておきますので、見つけてみてください。)

前期 0.8 冊

後期 5.2 冊

全校 4.3 冊

上記の数字は、4月～11月の本校図書館の貸出冊数の平均値です。そして、今回は久しぶりに各学級の貸出冊数もお知らせします。

1月(3年～6年)と3月(3年～5年)に、また読書冊数調査を行いますので、よろしくお願いします。

	1組	2組	3組	4組	合計
3年	29	5	34		68
4年	94	186	241	180	701
5年	57	150		347	554
6年	37	382		32	451

新刊紹介 (●は入荷済みです。)

- 『シークレット・オブ・シークレッツ』 上・下 ダン・ブラウン【著】
- 『八雲の妻 小泉セツの生涯』 長谷川洋二【著】
- 『血脈のナイトメア 天久鷹央の事件カルテ』 知念実季人【著】
- 『成瀬は天下を駆け抜ける』 宮島未奈【著】
- 『ウォード博士の驚異の「動物学入門」動物の秘密』 アシュリー・ウォード【著】
- 『コンビニ兄弟5』 町田そのこ【著】
- 『嘘つきジェンガ』 辻村深月【著】
- 『心霊探偵八雲 SECRET FILES 完全版 絆』 神永学【著】
- 『人の名前が出てこなくなったら鎌田實の逆さま言葉』 鎌田實【著】
- 『サイコロジー・オブ・マネー 一生お金に困らない「富」のマインドセット』 モーガン・ハウセル【著】

### ☆ 冬休み中の図書館の開館日 ☆

○ 12月22日(月) 23日(火) 24日(水) 26日(金)

[11時から16時30分]

○ 貸出し冊数に制限はありませんので、たくさん借りてください。

○ 1月8日の始業式の日に、返却してください。



作家の三宅香帆さんから、皆さんあてに、色紙をいただきました。図書館の入り口の掲示板に貼っていますので、見に来てください。三宅さんの本(『「話が面白い人」は何をどう読んでいるのか』)も先月購入しましたので、それも是非……。